

# 敬愛短大附属幼稚園だより 1月号

新年明けましておめでとうございます。

昨年はどうな年でしたでしょうか。世界中で新型コロナウイルスに多くの方が感染して大変な年でした。オリンピックの開催も年越しをしたり、幼稚園でも2か月間の休園など、幼稚園始まって以来の出来事がたくさんありました。楽しい話題よりも悲しい話題の方が多かったのかもしれませんが、でも、そういう時こそ元気を出して楽しい話題作りで新しい年のスタートをしたいものです。人には知恵があります。困難な時は皆で知恵を出し合い、助け合うことが出来ます。明るい2021年は待っているのではなく、皆で創っていきましょう。本年も宜しくお願い致します。

## —卒園児の活躍の源は幼稚園時代にあった—

昨年末にさっそく明るいニュースが敬愛幼稚園に届きました。年中さんに弟さんが在園している幕張小学校6年生で、当園を平成26年度に卒園した藤原海虎くんが県の作文コンクールで最優秀賞を受賞しました。毎年作文を書いており、その積み重ねが大きく花を開かせました。幼稚園時代から絵本をよく読んでおり、その結果、文章力や表現力が身に付き、それだけでなく、何に着眼するかという力が今回の受賞の原動力となったようです。以下に、園の先生が書いたホームページの文章と海虎くんの受賞の記事について許可を得て掲載させていただきます。

卒園児の「藤原海虎」くんが、第70回全国小・中学校作文コンクール県審査の小学校高学年で最優秀賞を受賞しました。職員皆、たいへん喜んでます。

「藤原海虎」くんは、平成26年度に卒園した園児で、現在弟の俐虎くんがあやめ組に在籍しています。海虎くんは、小さい時から絵本が好きで、お母さんや先生が読んでくれる絵本の時間をいつも楽しみにしてくれていました。

表現が豊かで、海虎くんの発する言葉に感動したり、驚いたりしたことを今でも覚えています。

また、小さな出来事にも感動して言葉で伝えたり、表現したり、「ありがとう」「ごめんなさい」を素直な気持ちで言える優しい男の子でした。お母さん曰く、「幼稚園でたくさん絵本を読み聞かせしてもらったことが土台となっている」とのこと。

全国小・中学校作文コンクールには、小学校1年生から毎年応募し、何度も優秀賞を受賞しています。（職員も全ての作文を読ませていただきましたが、文章の組み立て方や表現方法に感銘しただけでなく、内容に感動し涙涙で拝読しました）6年生になった今年度、初めての「最優秀賞」を受賞することができ、ご家族皆さんで喜ばれています。作文の内容は「新型コロナウイルス」について、自分が感じたことを豊かな表現と語彙力で書かれています。将来が楽しみです。（園長 杉山清志）

小学高学年最優秀賞  
藤原海虎君  
千葉市立幕張小6年



原君(千葉市立幕張小)

作品に込めた思いを語る藤原君

「**コロナに心壊されないうで**」

小学1年生から毎年応募している。入賞経験はあるが、最優秀賞は初めて。「よくよく取ることができた」と笑顔を見せる。

受賞の知らせを聞いた時、「一緒にいた家族とハイタッチした。父の竹識さん(40)は「抱きしめてあげた」と笑顔を見せる。

新型コロナウイルスの感染拡大で変わる社会や人々の様子を、身近な日常のエピソードを交えながらつづった。感染対策の商品の高額転売や、せきをずる人に

かかったけど、運転席にいたので出来ませんでした」と振り返る。

新型コロナウイルスの感染拡大で変わる社会や人々の様子を、身近な日常のエピソードを交えながらつづった。感染対策の商品の高額転売や、せきをずる人に

対する厳しい視線などを「どう考えても異常」と指摘。「目に見えないウイルスに心まで壊されないうで」と訴えた。

こだわったのは、文章の組み立て方だ。チラシの裏面などに書きたいことを箇条書きし、それを一つ一つ切り取り、パズルのように組み合わせて文章を作り上げた。

将来の夢は趣味を楽しむながら、人を笑顔にできる仕事に就くこと。具体的には「内緒です」と、はにかんだ。

主催 読売新聞社  
後援 文部科学省ほか  
協賛 J・R 東日本・東海  
・西日本、日本テレビ放送網、日本書芸院、光村印刷  
協力 三菱鉛筆